

平成28年10月20日開催 総合教育会議でのご意見と文化振興大綱への反映

	ご意見	大綱への反映(記載)内容	該当頁
1	奈良の文化の大前提として、「日本のはじまり、日本のふるさと」であるということを踏まえた上で文化振興をする、ということの中味に加えてほしい。	<p>(序章)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一方、本県は、古代において遣隋使や遣唐使の派遣など積極的な国際交流により、海外からの文化を受容していくための工夫を重ね、日本の国家としての基礎が築かれた場所に他なりません。 ○この、本県が「日本の歴史の始まりの地」、言い換えれば「日本文化の始まりの地」であるとの思いから、歴史や文化振興を通じて郷土の誇りを醸成し、それを地域振興の底力としていく取り組みについて、全国をリードする立場で推進していくことは、本県の使命であると考えています。 	1
2	地元の歴史について、地元の人への普及が必要ではないか。	<p>(課題分析のまとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史文化資源活用関連の全ての施策を一元的に情報発信し、県が地域の歴史を大切に行政を進めていくことを全国に向けて宣伝するとともに、郷土意識の醸成など県民への訴求力を高めるものとします。 	14
	歴史教育においては、歴史を教えるだけでなく地域とのつながり、横のつながり、心のつながりにおいて歴史を活かすことも大切。	<p>(施策の展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小・中学校等において、郷土の歴史文化や自然等を素材とした教材を充実させるため、仮称「郷土学習の手引き」を作成します。 ○高等学校等において、古典教材や世界遺産等を題材に、郷土の魅力について調べ、発表し合うなど郷土に根ざした教育活動である「奈良TIME」の取り組みを充実させるとともに、その成果の発信を行います。 	34
3	世界中での日本の文化歴史との視点を持ち、海外へ日本の歴史文化を発信を行うことも重要。	<p>(施策の展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財保護分野に関する国際協力の推進として、アジア太平洋地域の国々の文化遺産保護活動を支援するため、平成11年8月に、日本の文化遺産の調査・研究の中心である奈良に、県と奈良市の協力を得て公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所(以下、「ACCU奈良」という。)が開設され、文化庁委託事業である人材養成のための研修を中心に、さまざまな国際協力事業が展開されているところです。 ○県は、引き続きACCU奈良への事務所運営補助等の協力を実施し、奈良市、奈良文化財研究所、県立橿原考古学研究所等関係機関との連携の下に、豊富な歴史的遺産を有する本県の特性を活かした国際協力・国際交流の一層の推進を図ります。 	33
	海外や別の地域の文化を知ることも文化振興の上では大切。	<ul style="list-style-type: none"> ○奈良には、中央アジアの諸宗教の影響を色濃く受け、当時の国際的な交流によってもたらされた仏像が多く残されており、また欧米における仏教文化への関心は非常に高いことから、欧米の著名な美術館において、奈良の仏像の海外展示を行います。本展示によって、日本のはじまりの時代における国際性豊かな本県魅力を世界に発信し、海外における「奈良」の知名度を向上させ、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、海外からの誘客促進を強力に推進します。 	
4	同時に、奈良についての情報発信を強化して文化芸術の地としての「奈良ブランド」を育て上げてほしい。	<p>(本県の文化振興施策の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○芸術文化イベントについて、県内はじめ県外・海外の人にもわかりやすく情報を伝えるための効果的な発信手法を確立し、市町村や文化団体等県以外の主体と共に発信を行っていきます。 ○特に、平成29年度に開催される国民文化祭及び全国障害者芸術・文化祭では、県下全域にイベント開催が拡大され、県内外に向けて総合的な広報が行われることから、この取り組みを継承します。 ○また、これまで広報が不足しがちであった分野における文化活動については、関係団体等と連携し、より効果的に発信できる仕組みを構築します。 ○これらの取り組みを通じて、「芸術文化＝奈良」という新たな「奈良ブランド」の確立を目指します。 	27
5	子どもにも理解できる発信も必要。	<p>(課題分析のまとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史に関する説明力を磨き、そのノウハウを活かし、県組織に留まらず歴史文化資源所有者や市町村と共に説明力向上の取り組みを推進します。その際、人に感動を与える文化的背景や国際性など、歴史の本質に触れるような説明手法や、子どもにもわかりやすい説明手法の確立には特に重点を置いて取り組みます。 	15
	外国人は、奈良の説明を聞く際、奈良の本質、なんのためにという思いでそれをつくったか、ということに興味を持っている。		
6	「日本の文化や国際性のはじまりの地」であるという、奈良の文化の特徴についての認識を、郷土の誇りのベースにしていく、というようなことも大綱に盛り込んでほしい。	<p>(本県の文化振興施策の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化振興施策全体の方向性として、過去の文化から学び、様々な英知を得、また芸術文化活動を通じて現代をより豊かに生きることで、本県が日本や地域の文化を新たに創造していく力を持つ県、郷土の誇りを基礎にして、文化の力を地域や産業の発展に活かす県となっていくことを目指します。 	4